

10 グローバルな統計システムを構築する際の最良の実践の役割

Stefan Schweinfest (国連統計部)



国際機関のためのデータ品質会議
ニューポート、ウェールズ、英国：2006年4月27-28日

グローバルな統計システムを構築する 際の最良の実践の役割

(第3セッション: 現時点での最良の方法, 最低基準最良の実践についての収集・管理・普及)

Stefan Schweinfest, 国連統計部

Conference on Data Quality for International Organizations,
Stefan Schweinfest, United Nations © 2006 (Newport, Wales,
United Kingdom, 27-28 April 2006)

[本統計研究参考資料のために翻訳許可を得ている]

1



報告の概略

1. 「何」: 基準/最良の方法/最良の実践
2. 「どのように」: 収集/管理/配布
3. 「なぜ」: 透明性/調整/能力の構築
4. 「最良の実践」の普及についてのUNSDの3つの例
5. 議論のための要点

2



「何」: 基準/最良の方法/最良の 実践

- 用語の明瞭性の驚くほどの欠如: 「基準」, 「規約」, 「システム」, 「勧告」, 「原則」, 「最良の方法」, 「最良の実践」, 「優れた実践」, 「現在の実践」...
- 抽象的 - 具体的 (「基準」 - 「最良の実践」)
- 「基準」 = 標準 / モデル
 - ◆ 統計基準: 法的機関が承認している
例: 統計委員会 - 「強制」の問題
 - ◆ 最低基準 対 最大基準
- 「最良の実践」 = 適用された手続; 価値判断

3



「どのように」: 収集/管理/普及

- 収集
 - ◆ 範囲: メタデータ - 複雑な過程の記述
 - ◆ 時機: データ収集の時間 - 分離
 - ◆ 方法: 調査票 - 評価任務
- 管理
 - ◆ 組織および貯蔵することの困難 (原文情報)
 - ◆ 更新を保つことの困難
- 配布
 - ◆ するか, しないか? (センシティブな国家情報?)
 - ◆ 方法: 紙 (静態) あるいはインターネット (動態)

4



「なぜ」: 透明性/調整/能力の構築

問題: 「最良の実践」を普及させる主要な目的は何か?

- 透明性: メタデータの拡大
- 能力の構築: 知識の共有
- 調整: 前もって確立させた規範にむけての実践の収斂(「穏便な強制」)

5



最良の実践の普及についてのUNSDの3つの例

- 貿易指数
「外国貿易指数の編集および普及における国の実践—専門報告書」UN, New York, 2005, ST/ESA/STAT/SER.F/86
- 貧困統計
「貧困統計についてのハンドブック: 概念, 方法, 政策利用」, UN, New York, 近刊, ST/ESA/STAT/SER.F/99, <http://unstats.un.org/unsd/methods/pover-ty/default.htm>
- 統計組織
「政府統計—優れた実践についてのウェブサイト」<http://unstats.un.org/unsd/goodprac/default.asp>

6



貿易指数 (1)

- 統計委員会による要請によって促進
- 収集方法: 調査票で追跡しながら (1999-2002)
- 回答: 76カ国および1つの関税同盟
- 8分野についての比較的単純かつ直截な設問
- 回答者からの包括的な回答
- 1回限りの論文刊行 (2005): 標準的な記述は1国につき約1ページ

7



貿易指数 (2)

分野	回答率
1 作られた指数系列	100
2 情報の出所	100
3 指数の計算方法	100
4 指数の限界, 問題点, 他の方法論的観察	75
5 公表日	84
6 改訂方針	75
7 普及	99
8 編集機関および問い合わせ先情報	100

8



貧困統計 (1)

- 貧困統計ハンドブックに関する作業の一部(方法の目録)
- 収集方法: 地域ワークショップ(2005年)の期間中の追跡調査を伴った、紙/電子媒体の調査票
- 分析に使用した回答: 65カ国
- 約50の詳細な質問を伴った比較的複雑な調査票; また現実のデータを求める要請もふくむ
- 回答者からの一様でない回答
- 1回限りの論文刊行(2006年); 主要な知見についての要約表の提示(16ページ)

9



貧困統計 (2)

分類	回答率
1. 国の貧困率(データ)	95
2. 絶対的あるいは相対的貧困率	97
3. 所得対支出	97
4. カロリー域のレベル	68
5. 等しい尺度の使用	98
6. 商品バスケットの費用見積もりに使う貧困に特有のCPI	65
7. 食慣習の地域的傾向の考慮	68
8. バスケット内の食品数	69
9. 回収期間の長さ	95
10. 消費データの収集に使われる日記式調査方法?	35

10



統計組織 (1)

- 政府統計の基本原則に対する追跡調査活動の一部(情報の共有)
- 収集方法: 情報提供に対する当初の呼びかけ(2000年)
- 86カ国についての選択された情報
- 調査票なし、原資料の通知、10の原則と関係する分類にもとづくキーワードの指定
- 分類に関する情報の利用可能性が非常に不均等
- インターネットを基礎としたデータベース(UNSDによってその場限りの更新)

11



統計組織 (2)

主要な分類	回答率
諮問機関	49
利用者の協議会	81
組織的な計画および運営	78
統計の発表	95
配布と販売	55
公表方針	95
メディアへの対処	92

12



観察のまとめ

- 異なる状況によって促進される最良の実践の3つの「収集物」(データ/データなし; 方法的な発展の段階)
- 加盟国の約30~40%の情報の利用可能性
- 回答率や回答の質を高めるために決定的な直接的なコミュニケーション
- 労働集約的な作業; 持続可能性の挑戦課題
- 情報利用の限られた知識

13



議論のための要点

- 「最良の実践」の収集について他の例はあるか？
- この作業の費用便益分析を伴った経験は何か？
- 「最良の実践」の収集努力はどのような状況下でもっとも有益か？
- 「最良の実践」の収集が国々の「収斂」を促すのに効果的な道具であるということに同意するか？

14